

トップ > 医療・健康



|| コラム・聴診記(医療班から)

自殺予防という言葉

[更新日時]2009年02月08日

行政や教育界でよく語られる「自殺予防」というスローガンは大切なことではあるが、家族を自殺で失った人にとって、こんなにつらい言葉はない。

連れ添った妻や夫、子や親を突然亡くし茫然(ぼうぜん)自失するなかで、愛する人はなぜ死ななければならなかったのかと深く問い、病気や社会や職場や学校にその要因を見いだしたとしても、つまりはどんな理由があれ私が助けてあげられなかったのだと自分を責め、苦しんでおられるからだ。あとき電話に出ていたら。会社を休んだらとなぜ言えなかったのだろうー。死を防げなかった悲しみは歳月が癒やすものではない。

そんな人たちが2カ月に一度、思いを分かち合う「リメンバー福岡自死遺族の集い」が4周年を記念して1日開いた講演会の主題「どうしたら死なずにすんだんだ…」は、それぞれの当事者の心の呻(うめ)きにほかならなかった。

もともとこの主題は私たちに突きつけられている。それは、死の理由を拙速に結論づけて背景や責任を分かりよく説明しようとするマスコミや警察行政や宗教者や医者や地域への、静かな反論であり問い掛けなのである。(田川)

=2009/02/08付 西日本新聞朝刊=